

九州における延べ宿泊者数

2026年1月分第2次速報値

九州における2026年1月の延べ宿泊者数は430万人泊（前年比91.6%）、国内居住者延べ宿泊者数は330万人泊（前年比91.4%）、外国人延べ宿泊者数は100万人泊（前年比92.2%）。

国内客・外国人客の延べ宿泊者数（県別）

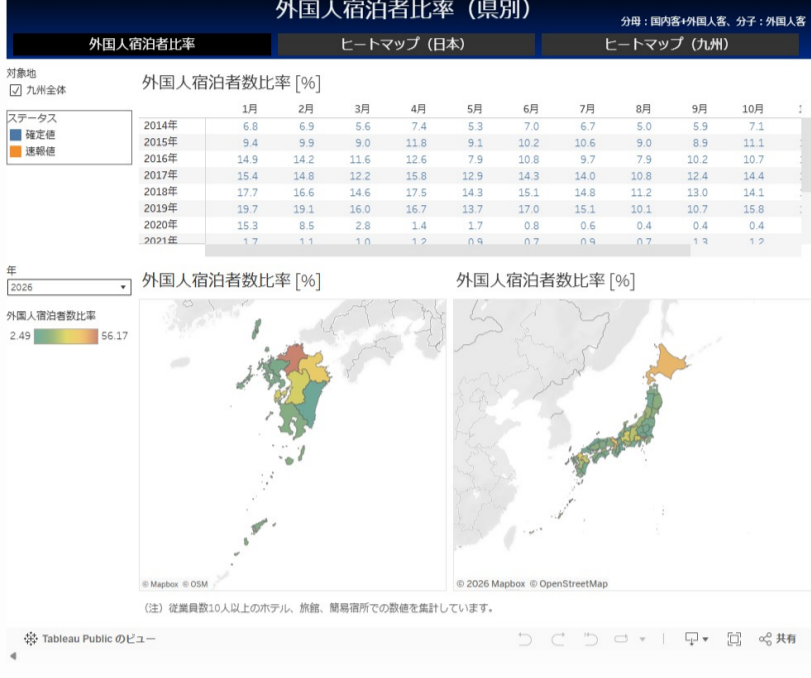
2026年1月の九州の延べ宿泊者数は、4,282,090人泊で前年同月比91.6%となった。このうち、国内居住者（以下、国内客）の延べ宿泊者数は3,262,860人泊で前年同月比91.4%となった。外国人の延べ宿泊者は1,019,230人泊で前年同月比92.2%となった。全国の2026年1月の延べ宿泊者数は、45,462,790人泊で前年同月比93.0%となった。このうち、国内客の延べ宿泊者数は32,628,940人泊で前年同月比96.7%、外国人の延べ宿泊者数は12,833,850人泊で前年同月比84.7%となった。

国内客の延べ宿泊者数は、物価上昇や実質賃金の伸び悩みにより国内旅行マインドの低下により、全国的に前年同月比に比べて減少したと考えられる。全国の外国人の延べ宿泊者数の減少は、中国客の減少の影響が大きいと考えられる。九州は全国に比べて中国客の影響が少なく、減少幅は小規模に留まった。



外国人宿泊者比率（県別）

2026年1月の外国人宿泊者数比率は、九州全体で23.8%となり、全国平均の28.2%を下回った。県別に見ると、福岡県が36.8%と最も高く、次いで大分県26.1%、熊本県20.6%となった。一方、佐賀県9.6%、長崎県9.9%、宮崎県5.9%、鹿児島県11.7%では、同比率が1割前後となっている。

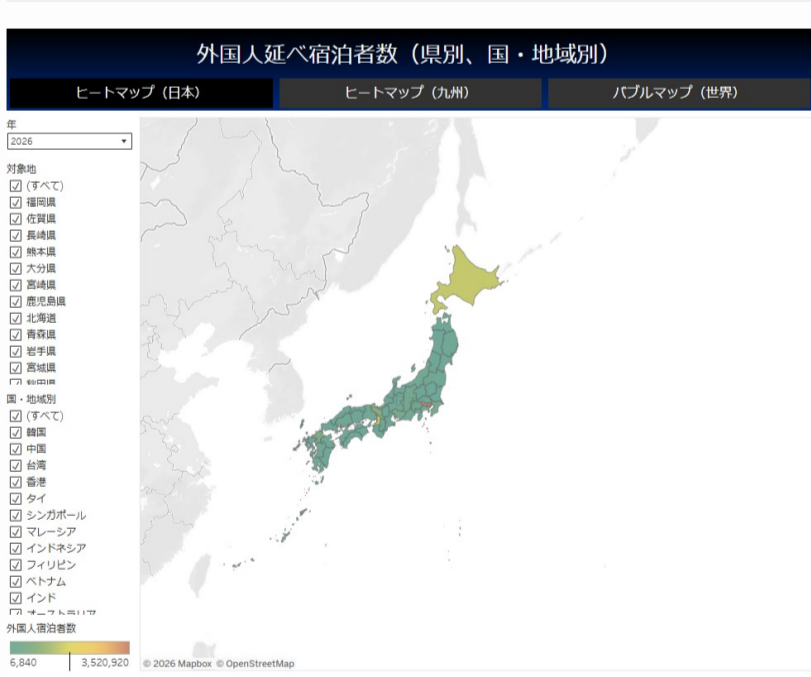


外国人延べ宿泊者数（県別、国・地域別） ※客室数20室以上の施設

客室数20室以上の宿泊施設における2026年1月の外国人延べ宿泊者数を見ると、韓国が421,150人泊（シェア48.5%）と最も多く、次いで台湾194,130人泊（同22.4%）、香港61,750人泊（同7.1%）、中国54,600人泊（同6.3%）となった。別国別では、中国が2025年11月からの渡航制限の影響を大きく受け、宿泊者数は前年比44.3%と大幅に減少した。香港においても、過あたりの定期便数が前年の46便から39便に減便したことで、宿泊者数前年比67.4%にとどまった。



外国人延べ宿泊者数（県別 / 国・地域別） ※客室数20室以上の施設



施設所在地別、国内客居住地別・外国人客の延べ宿泊者数 ※客室数20室以上の施設

従業員100人以上の施設では、2026年1月の国内客の延べ宿泊者数の45.5%が九州地方居住者となった。次いで関東地方で29.2%、近畿地方で9.8%、中部地方4.9%、中国地方4.9%となった。

